

つてやろう」「ウン 好からう、そうしよウ」「早う酣をしてくれ……」とそこは心安い友達同志の事やで、勝手に酣德利を出して、銚子をつけて、持つて来た酒を、チョビ／＼飲んで居たんですが、御承知の通り酒飲みと言ふものは氣の汚ないもので、一升の酒をば二人で飲んで仕舞ふたが、酒が少し廻つて来たので「ナア 八ちゃん」「なんや」「どうや、アノ彌太公、えらそうに化物が出んと、威張つてよるが、至つてコハガリや、モウ歸つて来るやろと思ふが、一ツ化物を造らへて、吃驚させやろうか」「ナニ 化物を造らへる、そら面白い、どんな事をするのや」「オイ 八チャン、そこらの棚に道具箱が有るやろ、中から金槌と釘と針金を出し、あつたか、針金で、鐵瓶とカンテキを括りつけるのや、彌太公歸つて来て鐵瓶をさげるとカンテキが、いつしよに上るので、ドキツとしよるに極まつて居る、それからランプを消して置くから、あかりをけ點やうと、マツチを探すに極まつてる、その棚の隅にあるマツチを……そこのお櫃から飯粒を出して、その棚へヒツ、けて仕舞うね彼奴がマツチを取らうと思ふて、其所へ手をやる、燐寸が密着いて居るわ、またビツクリする、其れから飯粒を、疊の上へ撒いて置く、くらがりで、疊の上を歩くと、足の裏を疊へ吸付けられるやうな氣持がして、震い上つて仕舞よる」「なるほど」「そこでや、その紐をこつちへ持つて來い、このお膳の足へ括つて置いて、上へ茶碗や皿をのせて置く、紐の端しを押入の中へ引つ張り込むのや、而うして俺とお前が、押入へ這入るのや、その時佛壇の鉦をばお前が持つて、俺が好い時分に、エヘ

ンと知らすと、お前が其の時、その鉦をばチン／＼チンと鳴らす、唸りが足らんと口でモン／＼と云ふのや、さうすると、彼奴、ビツクリする、そこで、この紐をばグウツと引張ると、お膳が、ひつくり返る、ガチャ／＼ガチャ、彼奴が表へとび出して行くに極つて居る」「成程、こりや面白いなア」「待て／＼、モウ一ツ化物があるのや、庭の眞ん中へ、天窓の紐が下つて居る、今空になつた一升德利を此方へ藉し、この紐へく／＼り付けて置く」「なに／＼するのや」「これをば斯うやつて置くと、彼奴が逃げる時に、この德利でゴツンと頭を打つ、それをば、闇がりやから、化物が堅い冷たい手で頭を毆つたと思ふ」「そりや、あかん。這入りしなに德利で頭を打つて仕舞ふやろ」「イヤところが、這入りしなは打たんと言ふのは、闇がりへ這入る時は、誰でも、俯むいて這入るのや、逃げしなは夢中やよつてに、眞つ直ぐに走つて出る、ゴツンと行くに極つて居る」「シカシ デボチンを打てばよいが、もし鼻の上を打つたら死んで仕舞うで」「それも左様やなア、お前へと彌太しうと、着物の丈けは一緒やなア、チョット、其處に立つて居てや、エイカ、それ、(ゴツン)「ア、イタ……何をやるね米やん」「これなら大丈夫や」「無茶しいないな、人の頭で寸法計つてからに、ソレこないに、ふくれた」「ア、勘忍して、もう歸つてくる時分や」「押入へ這入ろうか」「よかろう、そして俺が紐の端しを持つて這入るさかい。お前その佛壇の鉦を持つて這入り……火を消すぞ宜いか」といふので、兩人がチャンと趣向をいたしまして、押入へ這入つて待つて居る、所へ來ましたのは、